

みなさん、こんばんは。ただいまご紹介にあずかりました飛岡です。私の親父は中島飛行機という戦争中飛行機を作っていた、どちらかという陸軍系の飛行機を作っている所で技術屋をやっていました。

私は最初、飛行機の勉強をし、研究をしていました。1944年の生まれで、今年で71歳になります。その年から考えると納得されると思いますが、実は「ゼロ戦」を作った「堀越二郎先生」の最後の講義を受けている年代なのです。その後飛行機からロケットの研究に移り、中島飛行機の主任設計者であった「糸川英夫先生」と出逢いました。そこで東大のロケットの開発をずっと一緒にやっていました。

たまたま問題意識がちょっと変わって、東大の中では「長岡の留年」という話があるのです。どうということかという、長岡半太郎先生というのは皆さんご存知のように、世界に誇る物理学者でして原始模型が隔離されたひとりです。その長岡先生と物理学を勉強しようと思うときにこう考えたのです。果たして西洋人から作ってきた物理学というものを東洋人である私達がやって成功するだろうか。そう考えまして、実際1年間留年しました。そして果たして東洋人である自分が「西洋人が作り上げた物理学」をやって成功するだろうかということを見極めてから物理学の道に入っていくのです。

そういうことで結論はどうということかという、勉強していきますと、イタリアのルネッサンスの三大発明、それはどういうものかという、みなさんご存知のように羅針盤と活版印刷と火薬です。こういうものはすでに実は今から2000年前から中国ではできていました。この前の北京オリンピックのときに自分達は2000年前からこういうことをやっているんだ、というのがあのオリンピックの最初のオープニングのセレモニーだったわけです。ということで、長岡先生は東洋人がやっても大丈夫だという結論になりました。物理学の世界に入ったのです。

同じように私も飛行機やロケットをやっていたわけですが、果たしてそのままやっていっていいものかと考えまして、やはり科学技術の世界では専門家が沢山いますが、科学技術が人間社会に本当に役に立つかどうかを専門的に研究している人が少ないということを感じまして、そこからもう一度人間の勉強をし始めたのです。それだけではなく、ベースである生物学や心理学をやりながら、ありがたいことにその頃は学習院大学に清水教授がおられ、可愛がってくださいまして、南荻窪の自分の家に1年間泊めてくださいました。当時清水先生の言う社会学というのは今の社会学とは違って経済学、社会学、政治学、そういうものをすべて含めて社会学という。そういう中から最終的に先程ご紹介いただきましたように「人間と科学の研究所」というものを作りまして現在それをやっているわけです。

今日皆さんにお話したいのは、我々の祖先に対する感謝と同時に過去への感謝、それに対して未来への責任、そういうテーマでお話しさせていただきたいと思います。まずは質問させてください。みなさん方「今幸せですか？ 幸せな人、手を上げてください」幸せでない方もいらっしゃるわけですね。(笑)いいですか？ 手を上げ直しますか？ (笑)

次の質問です。「今から30年後、40年後、みなさん方のお子さんやお孫さんが今のみなさんと同じように幸せな生活ができると思いますか？」と思うという人、手を上げてください。思わないという人、手をあげてください。思わないという人のほうが圧倒的に多いですね。私も実は客観的にいうと厳しいなと思っているのです。だからこそみなさんが頑張らないといけないと思うのです。

実は今日本のGDPは中国に抜かれまして、中国は日本の2倍以上です。どんどん拡大していますが、日本が世界で2番目のGDP大国だったのはいつだったか。多分生まれていない方が相当いるのじゃないでしょうか。実は私が生まれた1944年の翌年の1945年に日本は第二次世界大戦に負けたわけです。負けて一人当たりのGDPはどのくらいだったと思いますか？ それこそ今の最貧国と同じです。第二次世界大戦の為に家庭の鍋・釜から神社仏閣の仏様まで全部抛出して一生懸命武器

を作って戦って結果的には負けたのです。非常に貧しい状態で一人当たり 2~300 ドルくらいだったのです。今のラオス、カンボジア、ミャンマーあたりと比べると 5 分の 1 しかない。そのくらい戦後日本は貧しかったのです。本当に厳しい状況だったのです。

ところが昭和 25 年朝鮮動乱というのがあり、その動乱により飛行機がどんどん発達を遂げてくると、アメリカが朝鮮半島で支援しようとしても陸続きの北朝鮮とソビエトの関係にはかなわない。どうしても物資を日本から調達せざるをえなかったのです。そのために日本から買い付けるということがあってそれを契機として日本の景気がものすごく良くなった。

そして日本がドイツを抜いて世界第 2 位の経済大国になったのはいつだったと思いますか？ 多分この中で生まれていない方が半分位だと思うのですけど。それは 1968 年です。73 年にオイルショックがあって、71 年にはそれまで第二次大戦後、金ドル本位制度が導入され、すべての通貨はドルを介在させて金に換えますよということ。そこがミソなのです。金本位制でない、金ドル本位制なのです。すべてドルに一旦換えてから世界中の通貨を金に換えるのです。ところが 1968 年にイギリスとフランスが集めたドルをアメリカに突きつけるのです。全部金にさせたわけですね。アメリカに金がなくなってしまい、1971 年ニクソンショックというのがありますが、金ドル本位制度を廃止したのです。実はその 3 年前 1968 年、この年に日本はドイツを抜いて世界第二位の GDP 大国になった。

さあ、戦後何年間で 2 位なったのでしょうか？ たったの 23 年間です。じゃあ、誰が資本家だったのでしょうか？ 戦後復興。ほとんど戦前教育を受けた人達ですよ。この人達が、太陽が昇る前から働いて、太陽が沈んでも働いていた。その努力によって日本というのは復興したのです。たった 23 年間！ じゃあその後、一体日本はどうなのか？ 我々のために彼らは残してくれたけれども、今の戦後生まれの我々は一体未来のために何を残しているのでしょうか？

まず 1,000 兆円を超える借金です。これは国民一人当たり直しますと 800 万円以上です。4 人家族でいきますと 3,000 万円以上の借金があります。これは今国家が健全に動いているから直接みなさんのところにかかってきませんが、国家機能が衰えてきたら、必ずどこかでみなさん方は、徴収されるのです。それくらいの借金を背負っている。それはみなさんの責任ですよ。そういう政治家を選んできました。そういう政治家を世間にどんどん増やしてきた。それだけではありません。このままでいくと日本の社会は人口が減り始めています。1 年間にしばらく前迄は 10 万人だったのが今年 30 万人以上減っていき、いずれ 1 年間で 100 万人以上減るようになります。

100 万人以上というのは、今の島根県や鳥取県の人口は 7~80 万人ですから、ひとつの県が毎年なくなるような人口減少が起こるのです。人口統計はいろいろありますが、最大統計でいきますと 40 年間で生産年齢人口、即ち 15 歳から 64 歳まで、この人口が 3,700 万人くらい減っていくのです。これから 40 年間で。ですから 40 年間という 2050 何年かですね。その頃になりますと人口が 8,000 万人くらいになってしまうのです。みなさん、そういう事をあまり考えていないかもしれませんが、世界史の中で、人口が減少した国が栄えた事がありますか？ ほとんどないのですよ。ということは一人当たり 800 万円の借金を背負わされて、そしてどんどん人口が減っていく。結果どうなると思いますか？

例えばひとりっ子同士が結婚するとしますと、二人の両親と祖父母まで面倒を見切れない方もいますし、会社を辞めてそれで面倒をみている方も出てきているのです。これがもっと厳しくなるのです。そういう状況に皆さん方はどのようにお考えですか？

さっきのロータリーの憲章の中で「若い人達を導いて」というようなことがありましたが、その若い人達がどんどんいなくなっちゃう。最盛期、二百数十万人一世代いたのです。ところが今 100 万人ちょっと。あと 10 年くらいで 70 万人くらいまで減少してしまう。育てるべき人口が大幅に減少してしまう。そんな状況に今あるわけです。

ところが今、みなさん方は違うと思いますが、経済人の多くは、東芝の例のように、ごめんなさい、もし関係者がいましたら先に謝りますけれども、自分が任期のときに会社を黒字にするために、一生懸

命操作をするわけです。実際これは東芝だけではなくて多くのところがそれに近いことをやっているんじゃないかと思うのです。結局今の自分のためだけに、自分の任期の時だけ何とか黒字にしよう。そうじゃない社長もいます。私が尊敬してやまない、昔私が顧問をさせていただいた凸版印刷という会社がありますが、その中興の祖といわれている鈴木社長は社長になったときに、まず普通の人がやらない、一期目にそれまでの膿を全部出した。一期目は大赤字です。一期目にきれいにして二期目から黒字にもって行くという、こういう素晴らしい方もいるんですが、大概のサラリーマン社長達はそうではなく、自分の任期中何とか黒字にしようと動いている人が非常に多い。

実は別にサラリーマン社長だけではなく、現代人というのは今の「自分がよければ」という人があまりにも多いのではないですか？昔の経済人であれば、一定経済のレベルにあれば、ほとんどの人が書生を持っていて自分の将来を継ぐような人間を育てるということをお金でやっていたのです。

私の人生は大変幸せな男でありまして、一世代で一部上場企業を作った社長を10人くらい、サンリオの辻信太郎、びあの矢内であるとか、こういう人達を見させていただいたのですが、大変素晴らしい方々もいらっしゃるのですが、そうではない方が多すぎるのです。その中のシダックスという会社がありますが、生意気なのですが、私のほうが10歳年下なのです。志太さんは10歳年上ですから81歳になります。その志太さんが何とか経団連に入りたいということで、経団連に入ったのです。

今、何と言っているかという、自分の金で何かをやる経団連の人がほとんどいないと。全部会社の金をあてにするだけだ。でも大会社の社長になりましたら年収1億円くらいある人が多いのです。1億円で税金半分もっていかれても5,000万円残るじゃないですか。自分の生活を質素にすれば3~4,000万円は人のため、世の中のために使えるのです。そんな気は毛頭無いのです。そういう人ばかりになってしまった。そこがこれから日本の将来にとって大きな問題です。

今、みなさん方がやらなければならないことは2つあります。1つは自分自身を磨くことです。それと同時に将来どういうふうに責任をもって、将来に向けて投資するかです。そこが一番重要なことです。例えば林業を考えてみてください。林業というのは30年位の期間がないと実際に商売になる段階まではいかないのです。一生をかけてやっとそのビジネスが出来るか出来ないかじゃないですか。林業を本当にやろうと思ったら3代前の事を考えてやらなければいけない。

しかし今世界中で森林がなくなっています。アマゾンもこれ以上伐ったら、今起こっている異常気象がもっと厳しくなります。今なんとか残っているのがラオスやミャンマーです。この辺りがまだ伐り出せるかなという程度です。本当にこれだけ豊かな雨が降って世界でも有数に植物が成長する日本なのです。そうであるとなれば子孫のためにみなさん方が林業を育てる。しかし自分の世代では買い取れません。そういうことを、いかにやるかということが本当に重要なことではないでしょうか。

今後、どういうことが起きるかという、「異常気象」と申しあげましたけれども、ずっと言い続けていることは、このままいくと聖書の中の「ノアの洪水」と同じようなことが本当に起きるよ、と。

どんどん温暖化が起きて海の表面温度が上っていく。そうすると水蒸気が蒸発します。上のほうはマイナス何十度です。必ず雨で落ちてくる。温暖化が起きるほど雨が激しく降ってくる。

日本の都市構造というのは1時間に35ミリ以上の雨が降ると耐えられない構造なのです。ところが今テレビを見ると、至るところで1時間に100ミリ以上降るようになっています。もう都市の限界を超えているのです。そういう意味合いでいうと本当に「国土強靱化計画」というのをやっていかなければならない。それを真剣にやらない限り我々の子供や孫は大きな被害を受けるのではないかと思います。でもなかなかそういうことをやろうとしない。

今年、安倍政権の来年度予算というのは100兆円を超え、相変わらず借金です。税金でまかなえるのはせいぜい4~50兆円です。まだ平気で借金を増やし、子孫に付けを回しているのです。それは誰がやっているかという、みなさんが選んだ政治家がやっているのだから、結局はみなさんですよ。みなさん自身がやっていることです。未来にどんどん付けを回している。

ですがみなさん方は、も我々の先輩達、おとうさん・おかあさん、おじいさん・おばあさんが戦争に負けて、朝日の出前から、太陽が沈むまで働いて、今日の礎を作ってくれたわけじゃないですか。それに乗かって我々は世界でも有数な幸せな生活をしています。

しかし、問題は先程手を上げていただいたら、さすがロータリーです。心配している人が多い。自分達の子供や孫の生活はどうなるのだろうか？そこを真剣に考えて未来への投資をしないといけないのです。そうしない限り日本は大きく飛躍できません。それどころか今の安保論議も、私に言わせると野党などはパンチを食らわせたいくらい腹立たしいです。

やっぱり今、日本が世界第三位のGDP国です。世界全体のおかげで世界第三位になっているのであって、世界の問題があったら日本人が行って、そこで命をかけて命を落としてもやるべきことがあるんだと思うのです。ところが今の日本人というのはどうですか？自分の子供を戦争に行かせたくない。自分も戦争に行きたくない。そんな感覚だけじゃないですか。世界に対しての責任をまったく持とうとしていない。自国の防衛だけで専守防衛。私から言わせると世界のおかげで今の日本の繁栄があるのですから、世界に対してもっと責任を持つべきだと私は思うのです。

ただしそれほどコトは単純ではありません。いろいろと配慮しなければならなくて日本人が本当に交渉上手であって交渉力をもって世界の戦争をなくしていくとすることができるのであればそれもまたひとつでしょう。戦争のひとつの原因は貧しさです。日本人が貧しいところへ、もっと援助するということが戦争が起こらないようにする、というのもひとつの方法でしょう。いろいろ知恵を絞らなければいけないと思います。

しかしながら現実的に戦いは起こるのです。残念ながら人間は戦うのです。みなさんだって企業同士の戦いを毎日やっているでしょう。それと同じように国家の戦いというものはずっと起こるものです。だとすれば「どう考えるべきか」ということが重要になると思うのです。

こういう話をしているとあつという間に終わってしまうのですが、私が今日言いたい一番重要な事は何かというと、ジョン・F・ケネディが素晴らしいことを言っています。「国家が国民に何ができるかではなく、国民が国家に何をやるか。それが重要だ」、と。今の日本人は何かというと国が何かをやってくれるだろう、県が何かをやってくれるだろう、全部「公」を頼りにするだけであって、自分が国家に何をやるのか、という発想がほとんどない。

今一番やるべきことは何か？やはり少子高齢化になった時の65歳以上パーセンテージはどのくらいだと思いますか？高齢社会と高齢化社会は違うのです。WHOで定義されていますが、65歳以上の人口が7%を超えたときは「aging society」-「高齢化」と「化」が付くんです。それが倍の14%を超えると「aged society」と過去形になります。高齢社会です。今日本は、更に超えて26%弱です。いずれ65歳以上の比率は35%に、ここ20年にはなっていくのけです。3人に一人は65歳以上です。まあ、そうは言っても私のように71歳でもピンピンしている人もはいます。人生7分の5掛けと言いますから私はそれでいうと50歳くらいですか。

でも若い人はどんどん生まれてこないと活力はありません。企業が伸びていく平均年齢は24歳くらい。そういう統計がしっかり出ているのです。そういうことで高齢化社会になってしまうのです。だとすればどうするか？死ぬまで元気でいろよ！ということです。ピンピンして、最後はピンピン・コロリと逝く。これが国民の義務ですよ。今、如何にして最期まで病気にならないで若い人達に負担をかけないか。次の世代に負担をかけないかということが重要です。そうしないと今で医療費が40兆円です。集める税金と同じです。更に1兆円ずつ増えているのです。「税金を払うこと」も「いざとなったら戦う」ことも「国民の義務」ですが、同時に「病気にならない」こともこれからは大きな国民の義務になっていきます。そのためにどうしたらいいか。

私の書いた本は今まで百数十冊ありますが、そろそろ最後にしようかと思うのですが、「私が主治医」という本です。自分が主治医なら自分で自分の健康をしっかりと理解しないとイケない。その為に

は、専門のお医者さんたちが一生懸命勉強するだけではなく、国民一人ひとりが健康について勉強をしなければいけない。そして自分がどういうときに具合が悪くなるかという事を自分なりの指標として見つけることです。

例えば私は、内腿の両側がちょっと冷えたような感じでざわついてくるのです。そういう時必ず風邪を引く。その時は子供用の薬を一本飲みます。すると大概治まる。そういうことを何でも良いですから、自分の体の変化具合を自分で知るということが一番重要です。私が今やっているのは、『自分が主治医』の為に自分の具合がすぐ判るような健康機器、センサーを作っています。

自分である程度判断がつく、そして悪いと思ったら病院に行くこと。そういうシステムを作ることが大変重要だということで今頑張っているのですが、頑張るといいこともあります。

東日本で一番大きい医療グループ、IMS(イムス)と大阪錦秀会が全面的に応援してやるよ、という話があります。重要なことは何かというと自分で体の調子を判断できるようななんらかの指標を見つける、これが重要だと思います。それで、できるだけ死ぬ間際まで健康でいてください。自分で自分の義務として課すということが一番重要だと思うのです。

そういうこといろいろな話したいのですが、時間がきておりますからこの辺でやめたいと思います。皆さん方は実は皆さん方の先輩達、祖先達のおかげで今日豊かな生活を送っているということ、しかしながらみなさん達は果たしてみなさんの子供や孫に対して今のような豊かな生活を送れるような基礎というか、そういうものを残しているだろうか？

今日本はあらゆる面で下落しています。学校教育の内容・体力の面にしても、種々の統計を見る限りでは落ちています。しかしまだ手術できるのです。それには国民一人ひとりが将来のために何かをしなければいけないという義務感を持たば、初めて可能になってくると思うのです。

そういう視点からやはり日本の、今だけではなく、将来のことを本当に議論できる政治家を選ばなければいけないと思うのです。それが日本の将来のためにつながっていくのではないかと考えています。まさにロータリークラブは将来のことを考え本当の意味での人柄というものを作っていく場であると思っています。こういう場で議論すべきことは、自分達の子供や孫のためにどういう日本を残すのか、そういう議論をしっかり考えていただきたい。自分の子供や孫にどういう社会を残せるのか？自分自身に問うてください。そのために何ができるのか？それがすごく重要なことではないかと思えます。

そして自分で自分の健康を「守ろう」と思ったらだめです。特に年寄りの方は注意してください。今の状況を「守ろう」と思ったら落ちていくだけです。「攻撃は最大の防御」です。もっと元気になろう、もっとキレイになろう、もっと頭を良くしよう、というふうに思って努力しない限り現状維持も難しいのです。「攻撃は最大の防御なり」です。「私はもう30だから40だから」、なんて言っているようではダメです。年に関係なくもっとよくなる。そのために未来に向かって挑戦してください。

自分自身、そしてできることなら未来に対して投資をしてください。みなさんのお子さん達は未来からの留学生なのです。これが一番重要であって、子供達にただ教えるだけの時代はもう終わりました。子供達が未来に出会うであろう問題を自分で解決できる想像力を身につけていかなければいけません。そのためにはどうしたらいいかという具体的なひとつだけお話しします。

例えば、ドイツへ行きます。3~4歳の子供と父親がいたとすると、どういう会話がなされているか。逆に日本では「××ちゃん、そうしたら危ないですからやめなさい」。もう一方では「××ちゃん、それはこうですよ」と、今の教育では教えるか禁止するかしかやっていないんです。ところがドイツではおとうさんに子供が何かをする、または話をすると“*Ich denke, wie über Sie*”、“*What do you think about this?*”ということをして3~4歳の子供に言うんです。「君はどうしてそう考えたの?」、「君はどうしてそう感じたの?」と。そういう質問をし続けるのです。そうすると子供はいつしか自分の頭で考えるようになります。それだけでいいのです。

それには何が重要か。会社に遅くまでいて子供に接する時間がなければそんなことはできないで

す。やはり子育てをしている時には家に帰って、子供との時間を作って子供に話しをしてやる。教えることではなくて話をしてやる。子供の言うことを聞いて、「××ちゃん、それはどうしたの?」「××ちゃん、それはどうしてそういうふうにしたの?」と繰り返しやるのが非常に重要なのです。余計な難しいことはいらない。そういう会話をし続けてやりさえすれば想像力が養えるのです。難しい話なんてなんでもない、やるかやらないかです。ところが今はひとりっ子だから干渉のしまくりです。

イギリスの哲学者バートランド・ラッセルが『幸福論』という本を書いています。その本の一説に「子供は砂場で放置しておくとも一日でも遊んでいる。何も無いところに自分で形を作ってその喜びを自分で味わって一日でも遊べる。ところが大人は15分いると飽きてしまう。大人の価値観で子供を測ろうとしてはいけない。それと同時にむしろ子供は自然の中に放置してやる」と。そういうことの想像力がどんどん養えるのです。今の親は干渉しすぎです。これではダメです。

そういうことで時間がきてしまいましたので私の話は終わりますが、どうぞこの東京御苑ロータリークラブの力を日本に広げ、更に世界に。今日申し上げたことを是非実行していただけたら幸いです。本日はありがとうございました。(終わり)